

Top

トップと語る

70

interview

福玉精穀倉庫株式会社



福玉精穀倉庫株式会社 代表取締役社長

社本 光永氏

◎聞き手

十六総合研究所 取締役社長 佐竹 達比古

SHAMOTO Mitsunaga

Fukutama Warehouse Corporation

当たり前前を当たり前にするのがいかに重要かを若い時に教わり、大切にしてきました。ご先祖さまから引き継いだ会社を後世に繋げていくために、真面目にコツコツとやりながら、一歩でも半歩でも前へ進む努力や工夫を積み重ねる会社であり続けたいと思います。

福玉精穀倉庫株式会社は、明治7年に水車を利用した精穀業を開始し、今年で創業150周年を迎えました。戦後に進出した倉庫業では、愛知県内を中心に63か所（面積はのべ約59万平米）のネットワークを展開する倉庫群を誇ります。大手販売店、メーカー含めさまざまなお客さまの多様化するニーズに真摯に向き合いながら信頼を築き、地域の発展とともに事業を拡大してきました。これからも『報恩感謝』の精神で、高品質な製品や付加価値の高い物流サービスを提供していきます。

本日は福玉精穀倉庫株式会社 本社をお訪ねし、代表取締役社長 社本 光永氏からお話を伺います。

水害が創業の契機に



十六総合研究所
取締役社長 佐竹 達比古

— 1874年(明治7年)に創業され、今年で150周年を迎えられました。

祖業の精米、精麦、製粉、製麺業についてお聞かせください。

●社本社長(以下、敬称略) 当社は濃尾平野の北東に位置していますが、濃尾平野は木曾

三川によってつくられた平野で、海拔はそれほど高くはありません。ひとたび大雨が降ると水没してしまうようなところですが、多くの水を必要とする稲作には適した土地だと言えます。そんな濃尾平野の北東の端に農業用のため池として江戸時代につくられたのが入鹿池でした。

創業のきっかけとなったのは、1868年(慶応4年)の入鹿池の決壊「入鹿ぎれ」でした。人々が丹精込めた田畑が一瞬のうちに濁流に押し流され、五条川流域に多くの被害がでました。恐れおののく村人の中で、創業者の社本九平は深い悲しみと同時に「この溢れる水の力をなん

とかこの地域の再生に利用できないか」という強い思いで、水車を建設して、米や麦を食べやすく、おいしくするための精穀業を営む決意をしたと聞いています。

— 水車の建設では、何度も大雨に流されるなど、完成まで相当苦労されたようですね。

●社本 今でいう水利権の問題で、川の流れをせき止めることは難しかったようです。創業者は五条川水系の曾本用水といわれる愛知県江南市から岩倉市へ流れている用水のところに水車を建てようとしたのですが、工事に着手する前にまず用水の受益農家のご理解をいただかなくてはなりません。その後も、いろいろな申請手続きを踏んで、着工から6年後の1874年に水車は完成しました。創業後も、水をめぐる苦労が多かったようです。

信頼関係を大切に、150年の歴史を築く

— 日本のさくら名所100選に選ばれている五条川の桜並木は、ご祖父様であり愛知県丹羽郡大口町の初代町長を務められた社本鋭郎氏をはじめとする、先人たちの故郷への思いによって植えられたと聞きました。地域への感謝を大切にされています。

●社本 創業当時、水車を動力として利用することは珍しくなく、この地域でも何十個と水車



創業100周年を記念して復元された水車(本社工場)

があったと聞いていますので、水車工場を創業したことは特別なことではありません。ですが、主要な動力が水力から電力に変わるなど150年間でいろいろな変遷があったなかで、今も会社を続けられていることは、やはり一緒に勤めてきてくれた社員、上流、下流のお取引先の皆さま、地域の皆さまのご理解、ご協力があるからこそだとつくづく感じ入ります。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」といいますが、日本人らしい「皆さまのおかげ」という気持ちや、「和を以て貴しとなす」という考え方を大切にしています。トップの力で新たなお客さまを探してくることはできても、倉庫業にはたくさんの人手が必要ですので、社員から当社の悪い評判が広がると、立ち行かなくなります。働く一人ひとりとの信頼関係が大切で、それは一朝一夕にはできないことだと身にしみて思います。

—— 社名の由来についてお聞かせください。

●社本 「福玉」というのは曾祖母 社本たまの霊神名です。50代で亡くなっており、祖父は母に対しての思いが強かったのでしょうか。戦前に出した商品名を「福玉麦」とし、1948年(昭和23年)に経営を法人組織に切り替えるため設立した会社名を「福玉精麦株式会社」としました。後から考えれば、京都のお正月の縁起物で「福玉」という紅白の飾り物があるようですし、語呂や字面も縁起がよさそうな名前ですか



福玉精穀倉庫株式会社
代表取締役社長 社本 光永氏

ら良かったと思います。

精穀業のノウハウを生かし、 倉庫業をスタート

—— 1951年(昭和26年)に倉庫を建設し倉庫業を開業されています。創業から77年経過して新事業に進出されたきっかけについてお話し願います。

●社本 もともと祖父は、麦の事業1本だけで続けていくのは難しくなると考えていました。倉庫業の前に、パン製造業を始めていますが、これは祖父の弟に引き継がれ、現在のカスガイパン株式会社、株式会社モンシェル(いずれも春日井市)になっています。その他にも段ボール製造や繊維業にも乗り出しましたが、これらは戦中戦後の混乱などで手を引きました。

そんな折、輸入した麦を運ぶのに便利な名古屋港近くで精麦工場用地を探していましたが、国鉄笹島駅の近くで中川運河の終点の立地にある工場用地とのご縁がありました。その土地を管理していた銀行の不動産部長から「あそこ



効率化・合理化を徹底し、物流拠点となる倉庫を提供

は精麦工場をやるところではありません、倉庫をやるところです」という助言をいただき、倉庫業を始めました。倉庫の保管物といえば米や麦などの食糧関係が多く、精穀業で育んだ原料・製品の保管・管理のノウハウを生かすことができます。

祖父は軌道にのせてから倉庫業を父の宮明に任せようと思ってい

ましたが、大口村の村長をお願いされて忙しくなり、まだ学生だった父を呼び寄せて倉庫の創業を担当させました。中川運河の近くですから便利なように思えますが、名古屋港からくると奥まっている分、不利な面もあり、当初は苦労して荷物集めをしたようです。

倉庫業に付加価値を構築し、多機能を備える「トータル物流サービス」へ

—— 倉庫業へ進出されて以降、朝鮮戦争の特需やいろいろなメーカーとの取引など、時代に合ったニーズに応える形で事業を拡大してこられました。

●社本 倉庫業は、昭和20~30年代においては港近くで発展してきた歴史があります。当時のほとんどの倉庫は、海上交易の発展に伴った原材料の輸入品などを大量に貯蔵するためのもので、倉庫に出入りする足は船しかなかったのです。当社は中川運河の横で倉庫業を始めま



対談風景／福玉精穀倉庫株式会社 代表取締役社長 社本 光永氏(右)、十六総合研究所 取締役社長 佐竹 達比古(左)

したが、内陸に本拠を構えていますので、モータリゼーションやトラック輸送の発達、高速道路網の広がり、小牧インターチェンジの開設などでインフラが大変整い、内陸型倉庫への転換という流れにうまく乗れました。小牧は日本の真ん中ですし、名古屋という大消費地と大工業地帯があります。そして倉庫業は人手がかかりますので、人が集めやすいという面でも地の利を感じています。

祖父は大口町長のときに小牧市と一緒にあって工場誘致に尽力しました。あくまで大口町のためにやったことですが、結果的に増えた工場ですらできた製品の倉庫需要も獲得できました。例えば季節商品の扇風機ですと、冬から春先までに作っておいて、春先から初夏にかけて電気屋さんに一斉に出荷しますので、倉庫需要がありました。

そのうちに、何か月間も完成品在庫を抱えるだけではなく、倉庫にプラスαの機能を持たせ



太陽光システムを屋上に設置するなど、環境負荷の低減をはかる

るようになりました。先ほどの扇風機でいえば、違う色の羽根をこちらの倉庫で持っておいて、電気屋さんの要望に合わせて倉庫で組み合わせて運ぶようにしました。建物用の電材商品であれば、部品や商材をこちらで多数持っておいて、建物の仕様に合わせてこちらで部材をピックアップして施工現場に納めるようにしました。そうすると問屋さんでやるよりも在庫や手間が減ります。昔は同業他社の製品を一緒に預かったり運んだりするのは好まれず、倉庫は各メーカー専用の倉庫を用意していましたが、店舗側としては、さまざまな業者から別々に製品が入ってきたら、荷受係が大変です。当社の倉庫で複数のメーカーの製品を積み合わせてからトラックで運べば、荷受係の受付は一度で済みます。時代と共に、単なる商品保管のための倉庫から、在庫管理、流通加工、品質検査、受発注から配送業務などの多くの機能を備えた「トータル物流サービス」が求められるようになり、そのニーズに応じて成長してきました。

大切な商品、 商売の機会を守るものが使命

—— 今春、最新システムを備えた大型倉庫「大口
ディストリビューションセンター」を稼働されました。
DXの取組みについてお聞かせください。

●社本 はっきり申し上げますと、当社だけでデジタル化はできないので、お客さまにデジタ

ル化がしやすい倉庫を提供しているというのが正しいところですよ。お客さまの各店舗で売れた商品を把握し、迅速に補充するためには、お客さまの情報システムと連動してはなりません。ですからお客さまにシステムへの投資をしていただき、長く使っていただきたいと思っています。コンピューターだけではできない、人手がかかるところは当社がお手伝いしています。

—— 倉庫の使い勝手がいいので長く使ってもらえるんですね。

●社本 最新のシステムを備えた倉庫では、建物以上にシステムへの投資が必要なこともあります。大手のお客さまでも数年でシステムの償却はできませんので、長く倉庫を使ってもらえると思います。倉庫業といえば、中で加工をするようになったといってもやはり"荷を預かってこそ"です。倉庫を6か月利用いただくときの売上げと、倍の値段で3か月使ってもらった後に3か月空いたときの売上げは同じですので、少しお値打ちに提供してでも、なるべく長く安定的に使ってもらえることが大事だと考えています。当社には50～60年と長く使われている倉庫がたくさんあり、値段は少し下がっても継続的に売上げが計上されているので、新しい投資ができます。

社員には、お客さまの財産をお預かりしているということをしっかりと伝えています。お客さ

大縣神社姫之宮豊年祭にて
創業150周年を記念した大鏡餅を奉納する様子
豊年祭は五穀豊穡・国家安泰・諸産業の発展を願う祭



まの大切な商品、ひいては商売の機会を守ることが、倉庫業のような後方支援の使命です。もし倉庫内で何か失敗すると、お客さまのチャンスを奪うことになりかねません。倉庫業は何よりも信用と信頼の積み重ねが大事なのです。お客さまからいただいた保管料を返金すれば解決する問題ではないのです。私たちはそれくらい大事な仕事をしていると社員には言い聞かせています。それを理解してくれる社員が少しでも増えれば、全体のレベルもさらに上がっていくと思います。

当たり前のことを当たり前積み重ねる

—— 信用と信頼の積み重ねをすごく大切にされていることがお話の端々から伝わります。

●社本 善良なる管理者の注意義務というのが我々倉庫業者に与えられた法律上の使命です。それは倉庫に入ってきたときと同じような状況を保って出荷するということだと、入社した時に教えられました。お客さまの大事な荷物をきちんと保管するなんて当たり前のことです。当たり前のことを当たり前にすることがいかに重要かを若い時に教わり、大切にしてきました。ご先祖さまから引き継いだ会社を後世に繋げていくために、真面目にコツコツとやりながら、一歩でも半歩でも前へ進む努力や工夫を積み重ねる会社であり続けたいと思います。

—— 人材確保や人材育成に向けた取組みについてお聞かせください。

●社本 事務所作業と違って現場作業を

やっているところは3K(きつい、汚い、危険)といわれる環境ですから、明るくしたり、温度調節をしたりと、少しでも働きやすい環境を整えることを心掛けてきました。

それから、やりがいを持たせることが一番大事だと思っていますので、そのための研究会やQCサークル活動[※]の推進、階層別研修の開催など、自己研鑽の機会を提供しています。若い人は「つまらない」「やりたい仕事ができない」とよく愚痴をいいます。でも、世の中の人には誰も彼もがやりたい仕事ばかりをできている訳ではありません。第一線で活躍している人でも、入社当時は今とは異なる仕事をしていた人は少なくありません。例えば、バックオフィス業務から企画職など、職種の壁を越え、思いもよらないキャリアを歩んできた人もいるでしょう。でも、与えられた仕事に一生懸命前向きに取り組んでいけば、それが楽しくなってくるし、思いがけないお客さまからの感謝の言葉をいただいたり、達成感を得られたりするのではないのでしょうか。本当に自分のやりたい仕事なんて最初は



[※]QCサークル活動：QCはQuality Controlの略。現場で働く社員を小集団に分けて、品質管理・品質改善について話し合い、改善策を見つけて出す活動



働きやすい環境の整備を推進

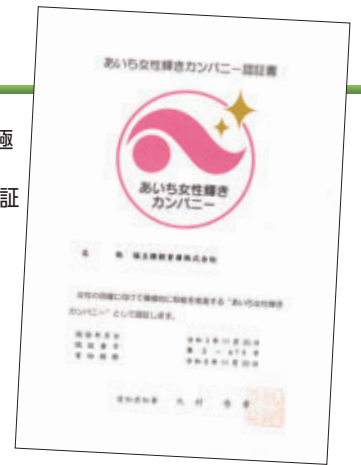
分からないはず。自分に与えられた仕事を一生懸命やっているうちに、その仕事が好きになって、自分がレベルアップして、その次の仕事を任されるようになります。私はやりがいを醸成するために、「まず会社や自分の仕事を好きになれ」とよく言っています。

便利さの追求で存在感を示す

—— 今後の経営の中で実現したいことや展望、社長様の夢などをお聞かせください。

●社本 倉庫業では、ものを作っている訳でも売っている訳でもありません。人さまがお作りになったもの、人さまがお売りになったものを指示に従って作業しているだけの仕事です。ただ、できるだけ便利に使っていただけるような仕事を追求していく、そこに存在感を示すことができればうれしいです。倉庫所管面積でいえば現在約18万坪です。今のペースでいけば、そう遠くない先に20万坪になる可能性は高いでしょう。ただ、その数値を目指している訳ではなく、結果として付いてくるものだと考えています。お

女性が活躍する職場づくりに積極的に取り組み、2018年11月に「あいち女性輝きカンパニー」認証取得



客さまのご要望にお応えし、「福玉さんに頼めば大丈夫」という信用と信

頼を積み重ねるしかありません。これからもその延長線上でいこうと思っています。ご縁があり勤めてくれている社員、協力会社も含めた皆さま、そして後世の人たちに、「福玉で働いて良かった」と自信や誇りをもってもらえる会社にしていくことが私の夢です。

—— 本日は貴重なお話を聞かせていただきありがとうございました。

(対談日：2024年3月19日)



本社にて

会社概要

- 本社／愛知県丹羽郡大口町御供所一丁目65
- 創業／1874年
- 設立／1948年
- 事業内容／1. 倉庫業 2. 不動産の賃貸借 3. 第一種利用運送業 4. 前項に付帯する一切の業務
5. 精穀業（米麦類とう精加工並びに販売） 6. 飼料の加工並びに販売
- グループ会社／福玉米粒麦株式会社、福玉株式会社、福玉ロジスティクス株式会社